

G3 ファクシミリ V.34 他相互接続試験実施要領

HATS 推進会議
(高度通信システム相互接続推進会議)
ファクシミリ相互接続試験実施連絡会

TTC相互接続試験実施ガイドライン

G3ファクシミリ・

V.34他相互接続試験実施ガイドライン

保存版

1998

社団法人

電信電話技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

TTC相互接続試験実施ガイドライン

G3ファクシミリ・

V.34他相互接続試験実施ガイドライン

1998

社団法人

電信電話技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

TTC相互接続試験実施ガイドライン改版履歴

(G3ファクシミリ・V.34他相互接続試験実施ガイドライン)

版数	制定日	改版内容
第1版	1998年4月6日	制定

目次

第1章 試験の目的	1
第2章 試験の対象	1
2.1 試験の対象となる端末・システム	1
2.2 試験に利用する網	1
第3章 本資料が試験対象とする標準の範囲	1
第4章 試験の前提条件	2
4.1 試験対象以外に準拠すべき標準の範囲	2
4.2 事前確認事項	2
第5章 試験項目	2
5.1 V.34試験方法	2
5.2 Fコード通信試験方法	3
5.3 JBIG通信試験方法	3
第6章 結果の報告	3
別紙	4

第1章 試験の目的

G3ファクシミリについては、国際電気通信連合（ITU）において標準化が進められ、関連の勧告が承認されている。

1996年2月のG3ファクシミリに関する会合において、G3ファクシミリにV.34モデム通信等の新たな機能を追加することが提案された。

これらの機能は1997年にTTC標準として制定された。

これらの機能をいち早くユーザに提供するために、承認され次第異なるメーカー間での相互接続性を確認し、ユーザの利便を図ることを目的とする。

本実施要領は上記状況の中で、各メーカーの製造する製品間での必要最低限の相互接続性を確保するために実施すべき相互接続試験の内容・手順等について規定するものである。

第2章 試験の対象

2.1 試験の対象となる端末・システム

試験の対象となる端末は、公衆電話回線に接続し、使用されるG3ファクシミリである。

なお、ISDNの回線交換モードで動作するG3ファクシミリを含む。

2.2 試験に利用する網

試験では公衆電話回線を使用する。

なお、公衆電話回線に接続することのできる他の網を使用しても良い。

第3章 本資料が試験対象とする標準の範囲

本相互接続試験の勧告・標準の範囲は以下とする。

- ・ JT-T4 文章伝送用グループ3ファクシミリ装置の端末特性
- ・ T.6 MMR符号化方式
- ・ JT-T30 一般交換電話網における文章ファクシミリ伝送手順
- ・ JT-T85 ファクシミリ装置のための階層的二値画像圧縮（JBIG符号化方式）のアプリケーションプロファイル

第4章 試験の前提条件

4. 1 試験対象以外に準拠すべき標準の範囲

試験として、試験対象以外に準拠すべき標準は特に定めない。

4. 2 事前確認事項

相互接続試験を円滑に実施可能とするため、相互接続試験の参加希望者は、事前に十分な試験を完了しているものとする。

事前試験としては、相互接続試験を行う機器の使用環境を整えたいうで、

- ・ 関連する勧告、標準に基づくプロトコルの検証試験
- ・ システム全体の機能確認試験
- ・ 相互接続試験を行うのに十分なシステムとしての信頼性の確認試験

等が完全に実施されるものとする。

事前の十分な確認試験が実施されたか否かについては、実施者自身の責任に基づく判定によるものとする。

試験は実施済みの2社以上と行うこととする。

第5章 試験項目

試験はV. 34、Fコード、JBIGの3種の試験がある。

試験は必要とする項目のみ実施することが可能である。

原稿は各社の標準チャートとする。

Fコード試験で使用するSUB、SEPの内容は予め試験実施社間で交換するものとする。

試験結果は別紙のチェックシートに記入する。

5. 1 V. 34 試験方法

1) 双方から以下の4通信を行う。

- ・ A4 1ページの送受信
- ・ A4 2ページの送受信
- ・ 2ページ目に線密度変更を行う送受信
- ・ ボーリング通信

2) 合否の判断

試験は必要とする項目のみ実施する。

通信スピード、PPR (ECMの再送信) は問わない。V. 34モードでの通信ができれば、OKとする。

5. 2 Fコード通信試験方法

1) Fコード通信 (例: Fコード親展通信)

受信側はDISにて、SUB能力ありを宣言し、送信側はSUB・TSI・DCSを送出してその後の通信が正常に行われることを確認する。

2) Fコードポーリング通信 (例: Fコード掲示板通信)

着呼側はポーリング送信用原稿をセットしておいて、DISにてSEP能力ありを宣言し、発呼側はSEP・CIG・DTCを送出してその後の通信が正常に行われることを確認する。

3) 合否の判断

試験は必要とする項目のみ実施する。

SUB、SEPコマンドの内容(FIFの内容)が正しく送受信されればOKとする。
画情報を正常に出力するか否かは問わない。

5. 3 JBIG通信試験方法

1) 双方から以下の3通信を行う。

- ・A4 1ページの送信
- ・B4 1ページの送信
- ・A4 2ページの送信

2) 合否の判断

試験は必要とする項目のみ実施する。

受信画にエラーがなければ、OKとする。

第6章 結果の報告

試験結果は添付のチェックシートに記入し、ファクシミリ相互接続試験実施連絡会に提出する。

(用語説明)

・Fコード

ファクシミリ手順のなかで、SUB、SEPフレームを使用して送信されるコード及び、そのコードを使用したファクシミリ通信アプリケーション。

TTC JT-T30に準拠しているため、Fコード機能を有するファクシミリであれば異なるメーカー間でも通信が可能となり、これまで各社独自モードで行っていたファクシミリ通信が標準プロトコルで実現可能となる。

・Fコード親展

SUBフレームにより受信側の親展箱を指定して送信するアプリケーション。

受信端末は予め親展箱を登録しておき、受信した原稿はこの親展箱に受信される。

この方式によって受信者を特定するファクシミリ送信が可能となる。

・Fコード掲示板

SEPフレームにより着信側の掲示板を指定してポーリング受信するアプリケーション。

Fコード掲示板を有する端末に予め掲示板を格納する箱及び原稿を登録しておき、その掲示板の箱番号を知っている人だけがアクセス可能な掲示板通信を実現する。

(別紙)

V. 34 他相互接続試験の
チェックシート及び連絡表

1. 試験日 月 日 () : ~

2. 試験結果

2. 1 V. 34 通信

1) _____ → _____ 送信スピード (TYP) _____ bit/s

A4 1枚送信 標準モード	A4 2枚送信 標準モード	A4 2枚送信 1枚目 標準モード 2枚目 ファインモード	A4 1枚 ポーリング受信		

○ : OK × : NG ブランク : 能力なし

2) _____ → _____ 送信スピード (TYP) _____ bit/s

A4 1枚送信 標準モード	A4 2枚送信 標準モード	A4 2枚送信 1枚目 標準モード 2枚目 ファインモード	A4 1枚 ポーリング受信		

○ : OK × : NG ブランク : 能力なし

2. 2 Fコード通信

1) _____ → _____

Fコード送信	Fコード ポーリング受信

○ : OK × : NG ブランク : 能力なし

2) _____ → _____

Fコード送信	Fコード ポーリング受信

○ : OK × : NG ブランク : 能力なし

2. 3 JBIG通信

1) _____ → _____

A4 1枚送信 標準モード	B4 1枚送信 標準モード	A4 2枚送信 ファインモード

○ : OK × : NG ブランク : 能力なし

2) _____ → _____

A4 1枚送信 標準モード	B4 1枚送信 標準モード	A4 2枚送信 ファインモード

○ : OK × : NG ブランク : 能力なし

3. 備考

●本ガイドラインの使用にあたっては、内容の変更の有無についてお尋ねください。

TTC相互接続試験実施ガイドライン

TTC-G-009-V1

G3ファクシミリ・V.34他相互接続試験実施ガイドライン

1998年4月20日 発行

定価 3,000 円 (本体 2,858 円)

発行所 社団法人電信電話技術委員会

〒105-0013 東京都港区浜松町1-2-11

浜松町鈴木ビル 2F

TEL. (03)3432-1551 FAX. (03)3432-1553

印刷所 (株) 一 二 三 書 房

©社団法人電信電話技術委員会 1998

